



REPORT 1

道路整備がもたらす 地域経済への効果 ～新名神・東海環状道の開通～

2019年3月17日、新名神高速道路の三重県内区間約22.9kmと東海環状自動車道の県内一部区間約6.4kmが開通する。2018年度、既に、四日市・いなばポートラインや四日市湯の山道路、中勢バイパスなど、複数の主要道路が三重県内で相次いで開通しており、これらと合わせて県内の道路ネットワークが充実することになる。

本稿では、これらの道路の概要を整理するとともに、新名神高速道路や東海環状自動車道を中心とする道路整備が、地域の経済や産業にもたらす効果について考察する。

1 2018年度の県内主要道路開通の概要

1 新名神高速道路

2019年3月17日に、新名神高速道路(以下、新名神)の「新四日市ジャンクション(以下、JCT)～亀山西JCT」の約22.9kmが開通する。その間には、菰野インターチェンジ(以下、IC)と鈴鹿パーキングエリアスマートインターチェンジ(以下、PASIC)が設置される。新名神の三重県にかかる供用区間は、「四日市JCT～新四日市JCT」(2016年8月開通)と「亀山JCT～甲賀土山IC」(2008年2月開通)の一部であり、今回の開通により県内の整備区間全線が開通することとなる。

新名神は、広域においては、東名高速道路(以下、

東名)、名神高速道路(以下、名神)および新東名高速道路(以下、新東名)と一体となって、国土軸のダブルネットワークとして三大都市圏を結ぶことで、人の交流と物流を支える大動脈として、また日本経済を牽引する道路として整備が進められている。

県内においては、東名阪自動車道(以下、東名阪)と並行し、東名阪とダブルネットワークを形成する。東名阪は、四日市・鈴鹿・亀山付近が上下線とも常に全国渋滞ワースト上位にランキングされているが、開通により四日市JCT～亀山JCTの渋滞発生回数は約9割の削減が見込まれ、大幅な渋滞緩和に寄与すると期待されている。

2 東海環状自動車道

新名神と同じ日に、一般国道475号東海環状自動



車道（以下、東海環状）「大安IC～東員IC」約6.4kmも開通する。東海環状は、愛知・岐阜・三重3県の各都市を環状に連結し、新東名・新名神や東名・名神、中央自動車道、東海北陸自動車道、伊勢湾岸自動車道等と一体となって、広域的なネットワークを形成する。東海地域の発展に必要不可欠な道路として、東回り（愛知～岐阜）が先行して開通し、現在は西回り（岐阜～三重）の整備が進められている。県内の供用区間は、「新四日市JCT～大安IC」となり、今後、大安ICから岐阜県側にかけて整備される予定である。

3 その他の道路

県北勢・中勢地域では、2018年度、新名神の開通に合わせるように複数の主要道路が開通している。

①四日市・いなばポートライン

2018年4月1日に、四日市港臨港道路（霞4号幹線）「四日市・いなばポートライン」約4.1kmが開通した。同港霞ヶ浦地区と伊勢湾岸自動車道のみえ川越IC付近を結ぶ。増加する港湾関連交通を高速道路網に円滑につなぎ、国道23号など周辺道路の渋滞緩和と港湾の利便性向上に役立つとされる。

②四日市湯の山道路、湯の山かもしか大橋

2018年10月27日、東名阪の四日市IC付近と新名神の菰野IC間を結ぶ、一般国道477号四日市湯の山道路（以下、四日市湯の山道路）約9kmが全線開通した。新名神・東名阪の高速道路および菰野町と、四日市市街、四日市港とをつなぐ新たな交通軸となる。また、同年8月24日に開通した一般県道湯の山温泉線「湯の山かもしか大橋」は、湯の山地区と国道477号（旧鈴鹿スカイライン）を結び、災害時や緊急時における地区住民や観光客の安全確保に加え、観光客のアクセスの向上や新たな観光資源としての役割も期待されている。

③中勢バイパス

2019年2月17日には、一般国道23号中勢道路（以下、中勢バイパス）の鈴鹿・津工区（7工区）約2.9km

【図表2】高速道路IC区間別の渋滞ランキング				
順位	都道府県名	道路名	方向	区間名
2017年（年間合計）				
1	東京	中央自動車道	上り	調布～高井戸
2	神奈川・東京	東名高速道路	上り	海老名JCT～横浜町田
3	神奈川・東京	東名高速道路	上り	東名川崎～東京
4	三重	東名阪自動車道	上り	亀山JCT～鈴鹿
11	三重	東名阪自動車道	下り	四日市～鈴鹿
2017年（GW期間中）				
1	静岡・神奈川	東名高速道路	上り	御殿場～大井松田
2	三重	東名阪自動車道	上り	亀山JCT～鈴鹿
3	山梨	中央自動車道	上り	大月～上野原
4	三重	東名阪自動車道	下り	四日市～鈴鹿

（注1）NEXCO 3社および本四高速の管理道路対象道路、2,680区間（上り・下り）
（注2）GW（ゴールデンウィーク）は4月28日～5月7日
資料：国土交通省「渋滞ランキングのとりまとめ」

が開通した。鈴鹿市を起点として津市を經由し松阪市へ至る道路で、国道23号の交通渋滞解消と沿線地域の経済発展を目的に整備が進められている。延長約33.8kmのうち未供用区間は、鈴鹿側で国道23号と接続するまでの約2.8kmのみとなった。

2 道路の整備効果

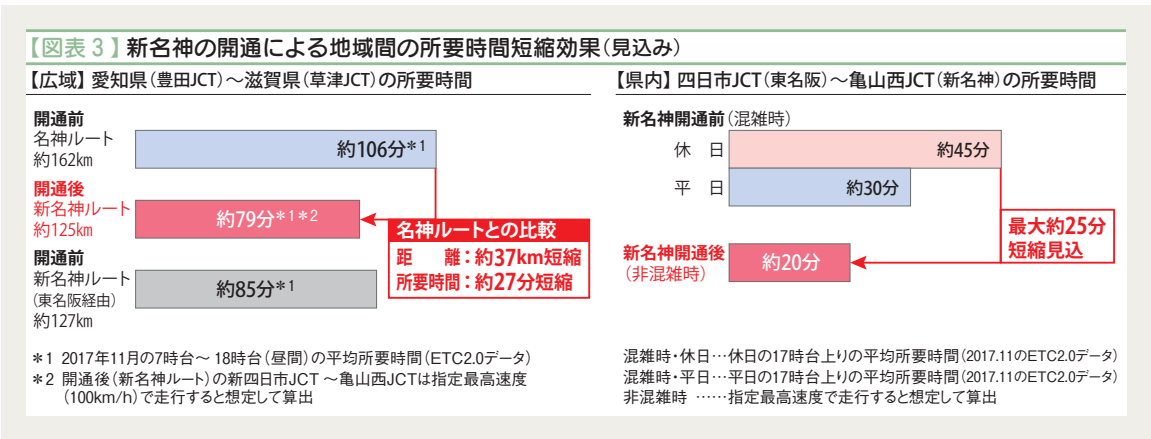
① 広範囲で期待される効果

新名神は、東名・名神・新東名の高速道路等と接続し、広範囲において、地域間の所要時間を短縮させるなどの効果が見込まれている。

さらに県内においては、前述の同時期に整備された主要道路の開通効果と相まって、新名神開通で得られる所要時間短縮等の効果を、沿線地域のみならず県内に広くいきわたらせることが期待される。

② 道路の整備効果とは

具体的に、道路の開通効果とは何であろうか。まず、道路の整備効果は、フロー効果とストック効果に整理される。フロー効果とは、道路の建設事業自体が原材料の調達などを経て、他の産業等の生産や雇用、消費などを生み出す需要創出効果で、道路建設が終われば基本的にはその効果はそ



資料：NEXCO 中日本ニュースリリース資料（2019年2月6日）より

こで終わる。

一方、ストック効果とは、整備された道路を供用することにより、開通した直後から中長期にわたって得られる効果のことをいい、道路を利用する者が直接的に受ける便益（①走行時間の短縮、②走行費用の減少、③交通事故の減少）と、それにより得られる間接効果がある。

間接効果として、救急医療の支援や大規模災害時における代替路確保などの「安全・安心に関する効果」や、通勤・通学圏の拡大やバスの定時性

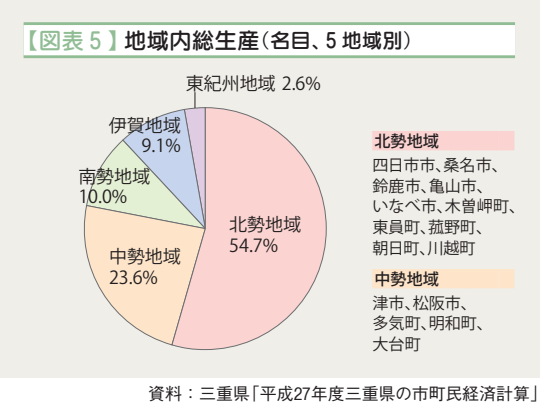
確保等公共交通サービスの充実、住みやすさの向上など「生活の質的向上に関する効果」、また、物流の効率化や投資・生産の誘発、人的・観光交流の活性化、雇用創出、人口・税収の増加など「生産性の向上により地域の経済や産業を活性化させる効果」が見込まれる。

ここでは、「生産性の向上により地域の経済や産業を活性化させる効果」に着目し、新名神等の開通が地域の経済・産業にどのような効果をもたらすことが期待できるか、主なものについてみていく。

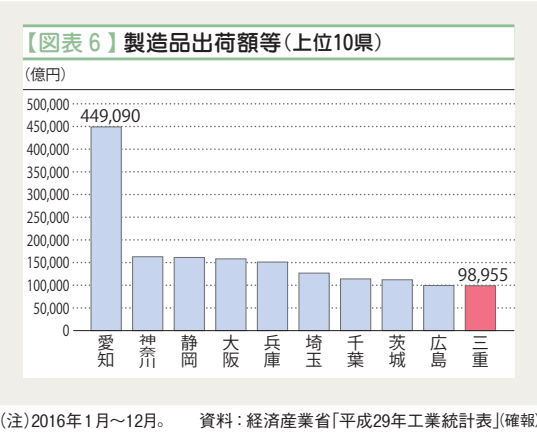
3 地域経済への効果（産業集積・企業立地）

① 産業競争力の強化

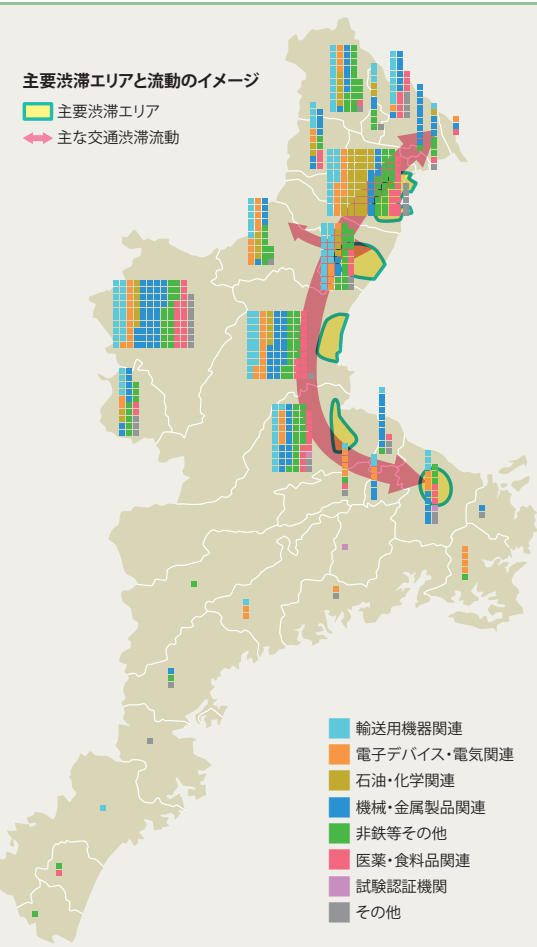
新名神等の道路が通過する県北勢地域には、自動車や石油・化学、電子デバイス、電気機械、食



料品などの主要産業が数多く集積している。地域の経済規模を表す総生産（2015年度）は北勢地域だけで県全体の55%を占め、うち約5割を製造業が占めている。三重県の製造品出荷額等（2016年）は



【図表7】県内の主要製造業等の集積状況と渋滞状況



資料：三重県「三重県企業立地ガイド」及び 三重県道路交通渋滞対策推進協議会(平成30年度)資料より当社作成

全国10位、1事業所あたりでは全国3位であり、全国的にみてもその集積度合いの高さがうかがえる。

国内外の競争が厳しさを増す中、輸送・所要時間の短縮や定時性の確保など輸送リスクの低減、安定輸送は、物流の効率化、輸送圏域の拡大、輸送費や人件費等のコスト低減、生産性向上などにつながり、産業競争力の強化につながる事が期待される。

また、国際拠点港湾である四日市港は、原油等の輸入と石油化学製品や自動車部品等の輸出における重要な拠点となっている。2018年度に開通した四日市・いなばポートラインや四日市湯の山道路等を通じて、高速道路網への接続がスムーズになったことと相まって、港の利便性が向上し、背後圏の産業を支える力が増すとともに、四日市港の利用促進も期待される。

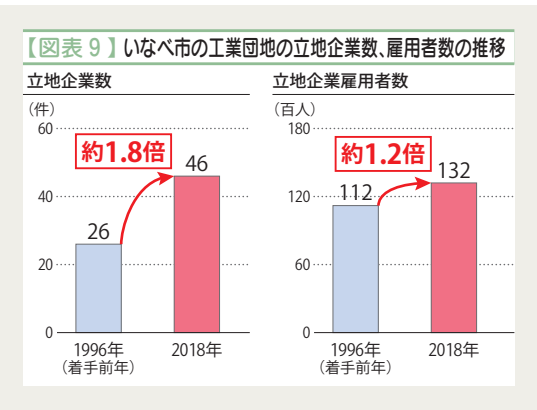
2 企業立地等の促進

開通が予定されている新名神や東海環状、渋滞緩和が期待される東名阪の沿線地域では、ここ数年、開通効果を見越して企業立地や投資、工業団地等の開発計画が進んでいる。

【図表8】新名神・東海環状沿線の開通を見越した立地・投資の状況



資料：プレスリリース記事等を参考に当社作成



資料：NEXCO 中日本ニュースリリース資料(2019年2月6日)より

例えば、いなべ市や東員町、桑名市などでは、イオンモール東員、ヤマザキマザックマニュファクチャリング、プレミアムキッチン、浜乙女、フジ技研、また、大和ハウス工業・東急不動産等4社共同出資による中部エリア最大級のマルチテナント型物流施設など、県内外から多種多様な企業が新規に立地している。東海環状が南北に走る予定のいなべ市内の工業団地への立地件数は、道路建設着手前に比べて約1.8倍、立地企業の雇用者は約2,000人増えて約1.2倍となった。

また、東名阪・四日市東IC周辺には、県の新しい広域防災拠点も置かれた。新名神の菰野ICや鈴鹿PASICの周辺では、IC開設に合わせて土地区画整理事業が行われており、工業団地や住宅団地等

の開発により、地域の活性化につなげようとする動きがある。

道路ネットワークの充実により、地域のポテンシャルが上がり、企業の立地や投資が促進され、産業集積地としての求心力がより一層向上しつつあるといえる。

4 地域経済への効果(観光振興)

三重県を訪れる観光客の交通手段の約8割は自家用車である。また、三重県には全国有数の観光地があり、観光客の7割弱は県外から来訪している。主要観光地の周辺では、休日や観光シーズンにおいて渋滞が慢性化している。また、GWや年末年始に全国ワーストとなるほどの東名阪の混雑・渋滞を嫌って、三重県への観光を避ける人も少なくないと考えられる。

このような現状を踏まえると、新名神やその他道路の開通とそれによる東名阪等既存道路の混雑・渋滞の緩和による観光誘客への期待は大きい。

とくに、「道路沿線の主要観光地」や「遠方からの集客力の高い観光地」などにおいては、集客力アップの好機になると期待される。

新名神の菰野IC周辺には、湯の山温泉や御在所岳がある。観光シーズンは渋滞が激しいが、2018

【図表10】県内の主要観光地と県外からの車による観光客流動



(注) 観光入込客数は三重県「平成29年観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書」より

資料：NEXCO 中日本ニュースリリース資料(2019年2月6日)より

三重県の主な観光施設(入込客数100万人以上)			
記号	施設名	市町	H29入込客数
万人			
A	ナガシマリゾート	桑名市	1,530
B	伊勢神宮	伊勢市	880
C	おかげ横丁	伊勢市	572
D	鈴鹿サーキット	鈴鹿市	204
E	二見興玉神社	伊勢市	192
F	湯の山温泉	菰野町	173
G	鳥羽市旅館街	鳥羽市	173
H	椿大神社	鈴鹿市	153
I	多度大社	桑名市	150
J	志摩スペイン村	志摩市	122

年に、新名神の開通に先行して四日市湯の山道路や湯の山かもしか大橋の供用を開始しており、高速道路から観光地までのアクセスルートや観光拠点の施設等は整備済みである。御在所岳では、2018年7月に山上公園をリニューアルし、御在所ロープウェイでは新型ゴンドラの導入やレストランの新設、登山用品ブランド店の出店、駐車場整備等に取り組んだほか、宿泊施設等でインバウンド誘客に向けた取り組みを行うなど、開通に向けて官民あげて受入れ環境の整備を行っている。

また、四日市港に寄港するクルーズ船のオプションツアーでは、停泊時間内の観光可能な範囲で、伊勢神宮や伊賀上野城、なばなの里などへのツアーを企画しているが、渋滞が解消すれば、移動時間の短縮により、観光できる範囲や滞在時間の拡大が可能となり、新たな観光ルートの企画の促進につながる事が期待される。

また、伊勢志摩や東紀州などの沿線から離れた地域でも、県外からの集客割合の高い観光地においては、移動時間が短縮されることは誘客PRの好材料となる。

国土交通省では、新名神の開通と東名阪の混雑・渋滞の緩和によって、三重県への観光客が増加し、

観光消費額が375億円/年増加すると推計している。

5 経済波及効果

企業の投資や立地、観光客の増加等によって、生産活動や消費活動が県内で行われると、生産や雇用・所得、税収などの経済波及効果が期待される。

例えば、企業が増えれば、その地域内の生産額が増加するとともに、その生産やサービスを行うために他の企業等から原材料や設備・機械、サービス等を調達することで、他の産業等の生産（売上）を誘発し、それが取引を通じて次々と波及（誘発）していく。さらに、生産活動を行うのに必要な雇用や既存雇用者の賃金が発生し、雇用された者が受け取った賃金の一部が様々な消費に回り、またその消費（購入）先で生産活動が行われるという、生産・雇用誘発効果が得られる。観光客についても、観光地等での消費活動によって地域にお金落ち、同様の経済効果が期待される。

また、企業の立地・投資や、それに伴う雇用創出や住宅開発などによる地域への定住人口の増加は、所在する自治体の法人税や市町民税、固定資産税などの税収の増加・安定にもつながる。

このように、地域の特定の産業に生じた変化が波及し、地域全体が活性化されていくという効果が期待される。

6 まとめ ～「効果」とするために～

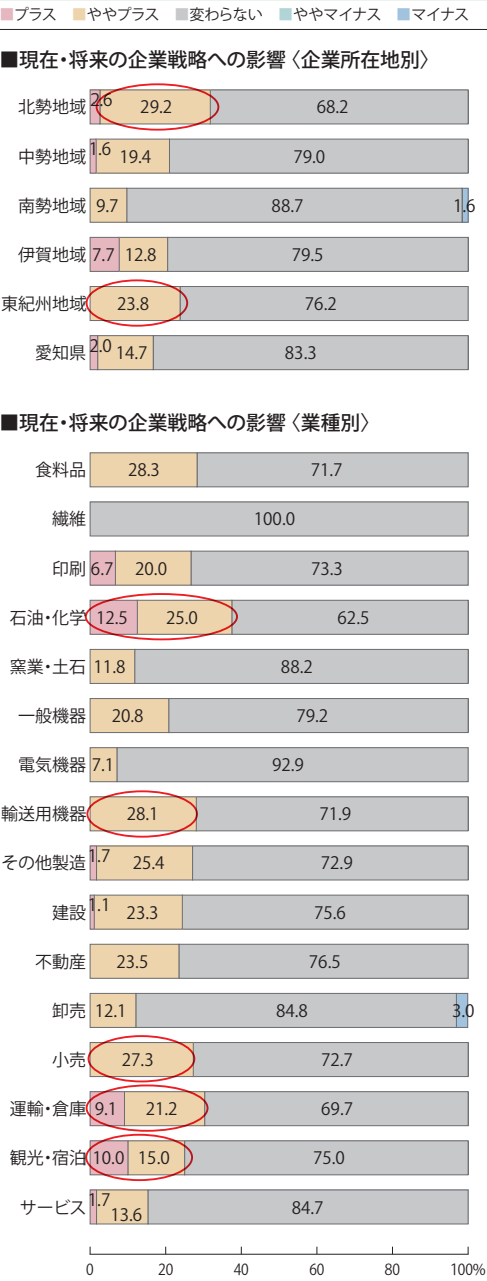
当社が、2017年7月に三重県と愛知県の企業に実施した調査では、新名神と東海環状の開通は、自社の「現在・将来の企業戦略」にプラスの影響を及ぼすとみている企業が、北勢地域だけでなく、県内全域、愛知県と幅広い地域でみられた。

また、業種別でも、石油・化学や輸送用機械などの製造業、小売、運輸・倉庫、観光・宿泊など様々な業種において、自社の企業戦略にプラスになると期待している企業がみられた。（※集計上の制約から、新名神や東海環状の供用区間を普段利用していない企業も含まれた回答のため、「変わらない」の回答が多い。）

少子高齢化が進むなか、景気回復に伴う人手不足も重なり、企業等においては、持続的な発展のためいかに生産性を向上させるかが大きな課題となっている。道路の整備や渋滞の緩和は、地域間の所要時間の短縮等によって、企業や個人の生産性向上を可能にし、新たな需要や消費の喚起にもつながる。しかし、それを「効果」とするには、企業や地域が、ポテンシャルが向上したこの環境をどう経営に活かすかという「戦略」を持たなければならない。効率的な輸送ルートや時間の見直し、新しい観光商品の企画、通勤圏拡大を活かす雇用確保策の拡充はその一例であろう。一方、新たな企業立地に伴い、近隣企業で人手確保が困難になることも想定され、魅力的な就労環境づくりも必要となる。また、県外に雇用者や観光客が流出するなどのストロー効果や、交通量増加による環境負荷の問題なども考慮しなければならない。

企業等からは、高速道路と合わせて市街地へのアクセス道路の整備や、北勢バイパスや中勢バイパスなどによる国道のダブルネットワーク化、未整備路線の開通見通しの早期発表などを求める声

【図表12】新名神・東海環状の開通による企業戦略への影響



(注1) 三重県及び愛知県の企業。回答601社。
(注2) 食料品～その他製造は製造業。
資料：当社「新名神高速道路と東海環状自動車道の開通の影響について調査結果」(2017年7月実施)

は多い。道路はつながってこそ相乗的な効果が得られる。企業や地域が、この好機をいかに活用し、持続的な発展につなげていけるか期待したい。

(谷ノ上 千賀子)

